

表紙解説

棚野池ノ脇地藏板碑

棚野は市内でも屈指の古塔の里である。対岸の市福所は巨大な潜龍塔で有名な古塔群を有しているが、数の上から言えば棚野が随一であろう。投珠軒の裏山に寄せ集められたもの、未だ周辺に散在している五輪塔を合わせると百基を下らない数である。

この墓地の山裾(池ノ脇)に村人の祀る靈験あらたかな地藏さんがあって、古木覆う根方に五輪塔数基が苔むしている。青山地区を調査中であつた会員汐月三代吉氏が拓本を採るために板碑を洗つたところ、永正五年(一五〇八)に造立された古い地藏尊であることが判明した。

時は室町時代、梅牟礼城主・佐伯惟治が自刃する一九年前のものである。死者を解脱の道へ導くという地藏信仰は、この頃から民間に定着し始め江戸時代にかけて広く行きたつたようである。拓本は宮下良明会員による。

灰石製 高一・五尺 巾一・二尺 厚三寸 (台座別)

中央に地藏座像を周圍に厥手唐草模様を線刻、文字は「崑永正五年戊辰三月二十四日 大願主敬白 奉祐梅彫」と刻まれている。

行事予定

会員研究発表会

七月十八日(土)午後二時～四時

会場 佐伯図書館二階

テーマと発表者

一、矢野龍溪の憲法論

佐郷 幸治

二、佐伯惟世から惟治

佐藤 巧

三、大神氏墓誌銘(千代鶴供養塔)

木許 博

四、城普請と農民

林 寅喜

皆様方のご来場お待ち申し上げます。

佐伯史談 一六〇号

平成四年六月十五日発行

発行者 佐伯史談会

事務局 事務局長 佐藤 巧

佐伯市池船町四十二

電話二二一三二〇〇

振替口座下関八一三三九二一

編集者 後藤 知久

印刷所 電話二二一七六〇九

(有)勉強堂美術精版社

佐伯市中央区新道